



RI 第 2 6 1 0 地区

## 東となみロータリークラブ会報

2014-2015 年度 No.26

事務局 〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F

ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 F A X 0763-53-1334、

[inashor@athena.ocn.ne.jp](mailto:inashor@athena.ocn.ne.jp)

2014-2015 年度 会長 坂井彦就、幹事 岩崎 修

2014-2015 年度 RI テーマ



Light Up Rotary

「ロータリーに輝きを」

(ゲイリーC.K.ホアン会長)

## 例会記録

### 第 1 7 5 1 回例会

平成 26 年 12 月 24 日(水) PM 0 : 30

よいとこ井波

1. 点 鐘
2. ソング：四つのテスト
3. ゲスト：千秋謙治氏(南砺市文化財保護審議委員会 会長)



4. 米山山功労者感謝状贈呈：坂井彦就君(第 1 回)、中島眞市君(第 1 回)、齋藤彰君(第 3 回)
5. 会長の時間：今日は千秋会長ありがとうございます。後程卓話よろしくお願ひします。先程お話を伺っていましたら、割り箸の話をされましたが大変深いお話だったので卓話を大変楽しみにしております。先日はクリスマス例会でしたが、大変楽しく過ごさせていただきありがとうございます。その次の日に庄川インバウンド委員会のメンバー 7 名で九州に行っていました。以前お話ししましたが第 1 回目は石川県の輪島に行き外国のお客さんを如何に受け入れるかという視察でしたが 2 回目の今回は湯布院と熊本県の黒川での視察でした。湯布院では街を歩いていても殆どが外国人であり、様々な言語が飛び交っておりました。湯布院にもインバウンド委員会があり懇談をさせていただきました。その中の一つの旅館では、9 割以上が外国人であるという話があり、どんな対応をしているのか聞きましたが特別なことはされていない。社員が外国語を喋れるわけでもなく、館内の隅々に英語だけで説明表示しているということでした。また、各旅館が HP の英語版を作ったり、組合の HP から各旅館の HP にリンクさせることなどは行っておられます。2 日目は黒川を訪ね各旅館の取り組み内容を聞きました。こちらも同じような話であり特別なことはされていない。パンフなどは英語版だけで他の言語のも

のはありませんでした。黒川は、日本人客は増えていませんが、外国のお客さんは3割増だということでした。知名度と言うこともあります、我々も同じように取り組めば必ずできるのだという確信が持てた視察でありました。次回は1月19日～20日に東京浅草近辺の旅館の取り組みを聞いてきたいと思っています。



6. 幹事報告：①来週 12月31日は例会取り消しです。  
②2015年1月のロータリーレートは、1\$=118円です。  
③書き損じはがき収集のお願い：2月中に国際奉仕委員会が担当。  
④1月7日、新年懇親会の案内『松風樓』18:00 例会終了後懇親会。  
⑤例会の変更については、事務局に確認の事。
7. 出席報告(SAA代理):12月3日、19名中13名出席(内出席免除者1名)、72.22%でした。12月10日と17日、19名中16名出席、84.21%でした。本日、19名中15名出席、73.68%でした。
8. 委員会報告：①親睦活動委員会(岩崎幹事代理)：1月7日の新年懇親会は、井波地区のみバスが出ます。交通広場、17:30 集合をお願いします。②その他(坂井会長)：食事をお願いしている「季味の庵」さんより、お歳暮を頂きましたが、皆さんで分ける品物でないの、日ごろからお世話になっている事務局に差し上げますので、宜しくお願いします。
9. ニコニコBOX(SAA：本日5名)

**坂井会長**：今年最後の例会です。とても良い年でした。

米山功労者、有難うございます。来年も宜しくお願いします。

**小西会員**：国の登録文化財の斎賀家住宅が南砺市へ寄付されました。今まで管理していましたが、ホッとしております。今後有効活用され、にぎわ

いの起爆剤になればと願うものです。

**齋藤彰会員**：米山功労者表彰有難う。お陰様で今年も米山奨学会の活動にかかわることが出来ました。今後も続けられるよう一生懸命働きます。皆さん、良いお年を！

**河合会員**：先週、横山豊介氏の色紙ゲットしました。玄関の床に飾りました。新年が来た様な景色です。今日の花、アメリカン終です。ケーキに本物を飾りませんか、6-7本ありますから、希望者はお持ち帰り下さい。

**中島会員**：ゲストの千秋先生ようこそ。卓話宜しくお願いします。米山功労者感謝状、有難うございました。所用のため、早退します。

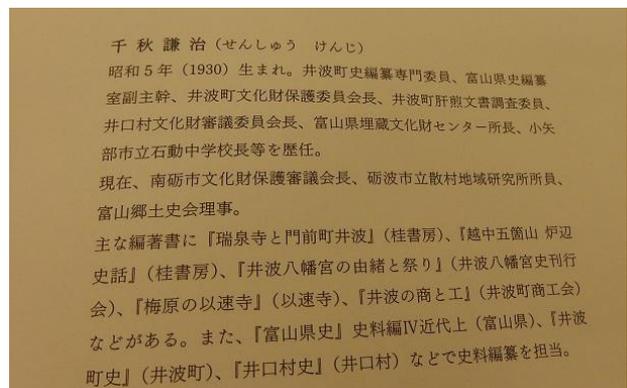


本日の花(河合会員提供)：アメリカン終

## 卓話『加賀俳壇と浪化』

**千秋謙治氏(南砺市文化財保護審議委員会 会長)**

**横山幹会員(紹介者)**：本日卓話をお願いしました、千秋謙治様は、過去にも当クラブで卓話をお願いしております。現在、南砺市文化財保護審査委員会の会長をされておられます。〈以下：画像を参照〉



**千秋謙治氏**：このような席で卓話などできかねる年ですが、

思うことをお話させていただきます。最近、興味を持って調べているのが、鹿児島と利賀のつながりです。昔、「西南の役」に利賀出身者が参加したという記録があり、その役後、囚人として鹿児島人が石川県(現在の富山県利賀村?)に連れて来られ、その後、その末裔が衆議院議長にまでなった歴史があります。西南の役で、熊本の田原坂(たばるさか)で戦死をして、県の護国神社に奉祀されているこの地方の人が数名いることも明らかになっています。



さて、本題の『加賀俳壇と浪化』について、浪化上人ですが、元禄時代に瑞泉寺の住職を務め、本山のある京や末寺の金沢に何度も行き来をされて、井波やこの地域には、浪化上人の発句があちこちにあります。元禄期の文化交流は、大変盛んで、浪化上人は、松尾芭蕉の指折りの弟子でもあって、京の都の文化に対して、加賀や井波は地方のひなびた文化の中心であったものと思われます。今日は、そういう意味で、「元禄期の鄙振り発句(ひなぶりほっく) 12撰」を選んで、資料として持って参りました。

① 「水鳥の胸にわけゆく桜かな」浪化(卯辰集)

これは、加賀俳壇に出入りした当初の20才の時の句です。師の芭蕉は、行脚で越中は、水橋と高岡しか立ち寄らず、すぐに金沢に入り、ゆっくり逗留します。そして、加賀の侍料理を食せず、仲間と質素な食事をしたといいます。奥の細道の旅の間、芭蕉は淡白な料理を好んだといいます。

② 「秋涼し手毎にむけや瓜茄子」芭蕉(おくのほそ道)  
浪化上人の句は、おごった調子のない素直な作品が多く、庄(雄神)の光教寺(今は今町に移った、現在はそこは雄神神社)の畑の坂で作った句が次である。

③ 「落ちひばり一銚おこす鼻の先」浪化(喪の名残)

浪化上人は、京本山の連枝も務め、俳句に品がありました。

①の卯辰集を一緒につくった金沢の北枝(ほくし)という人は、元は刀砥ぎ師で、大変浪花上人を尊敬していました。

④ 「はきながら履(ぞうり)を洗ふ清水かな」北枝(猿蓑)

⑤ 「野社に太鼓うつなり雲の峰」北枝(わせのみち)

芭蕉の手紙が全国で180通ほどある中で、井波にも残っています。それは、金沢の北枝に宛てたものですが、浪化上人との繋がり深さ故です。芭蕉は曾良と一緒に旅をしていましたが、金沢からしばらくは北枝と3人で加賀温泉などに行きました。金沢には、井波別院瑞泉寺の出張所(掛所)があり、昔は「井波町」の地名もありました。浪化上人はそこを拠点として金沢と交流をしていました。芭蕉が亡くなった後、そこで浪化上人は法要を営んだそうです。余談ですが、芭蕉が今の富山市内に立ち寄らなかったのも、そこには文化がなかったからだそうです。その点、当時から井波は、資産家は皆、俳句などを作ったりしていました。

⑥ 「秋まつか機おる傍にきりぎりす」支考(東西夜話)

この作者は、美濃出身で、機織りは城端を題材にしています。

⑦ 「真綿むく匂いや里の入り口」惟然(続有磯海)

この作者は美濃の関出身で、これは井波を題材にしています。

⑧ 「壁つけぬ小屋に伊達あり後の月」桃化(続名月集)

これは、瑞泉寺12代住職の桃化上人の句で、大牧温泉で歌った句です。当時、大牧までは、杉原から、つり橋で庄川を渡り北原に行き、1尺しかない細道を歩いて、湯治に行ったそうです。当時の宿は小さな合掌造りなのか、壁のない小屋の風呂に入っていたのですね。

⑨ 「川縁は皆桃さけり洗濯場」浪化(壬申日記)

⑩ 「木枯しや片見世おろす町通り」浪化(蕉門古人真跡)

⑪ 「雪囲いするやいなやに鶴鶴(みそさざい)」浪化(浪化上人発句集)

⑫ 「にぎやかに菊は咲きけり初時雨」浪化(桃盗人)・・・

浪化上人は、32歳の若さで亡くなりました。その句の6-7割が鳥を歌ったものです。芭蕉も大阪で亡くなりましたが、近江の義仲寺(ぎちゅうじ)に墓があります。また、県内の各地に芭蕉の塚があります。井波には、髪の毛を祀った「黒髪庵」があります。